

## 件 名

---

新しい県立図書館の検討推進について

## 提出理由

---

新しい県立図書館の検討推進に係る令和3年度の実施と今年度の実施について別紙のとおり報告します。

## 概 要

---

- 1 県立図書館の現状
- 2 令和3年度の実施
- 3 今年度の実施



# 1 県立図書館の現状

## 県立図書館に係るこれまでの経緯

時期	内容
昭和35～55年	浦和（S35）、熊谷（S45）、川越（S50）、久喜（S55）図書館設置
平成8年1月	「埼玉県立中央図書館（仮称）基本構想」 市町村に公立図書館が整備されてきたことに伴い、県立図書館の役割が変化。県立中央図書館を新設するとともに、現行の4図書館体制を見直す。
平成14年10月	「県立社会教育施設再編整備計画」 県立川越図書館管内の市町村立図書館サービスの充実度を示す指標が最も高い。また川越市は平成14年度に2館を設置する予定であることから、県立川越図書館を統合する。
平成15年3月	県立川越図書館廃止
平成26年10月	「新県立図書館在り方検討有識者会議 提言」 少子高齢化、グローバル化などの社会状況の変化の中で、県立図書館は「知」や「情報」、「交流」の拠点となる必要がある。3館で分散している資料を集約させ、ワンストップでサービスができるよう施設・設備の見直しについて検討する。
平成27年3月	県立浦和図書館廃止（H28.4 2館では収蔵できない資料を外部の書庫で管理開始）
平成31年3月	第3期埼玉県教育振興基本計画（H31～H35） 施策25 学びを支える環境の整備 新しい県立図書館の検討・推進
令和3年12月	埼玉県5か年計画（R4～R8年度） 分野別施策26 生涯にわたる学びの推進 新しい県立図書館の検討推進

### <参考 議会答弁>

◆令和2年6月定例会 一般質問 高木真理議員

Q. 県立図書館の建設について、どのような考えか見解を伺う。

（知事答弁：抜粋） 図書館は県民の学習活動や社会経済活動を支える重要な社会基盤である。新しい形の埼玉県立図書館の実現を目指し、まずは教育委員会においてしっかり検討をしていただきたいと考えている。

◆令和3年9月定例会 一般質問 石渡豊議員


Q. 新しい図書館について早急に検討に取り掛かるべきではないか。

（教育長答弁：抜粋） これまでの教育局内での検討も踏まえ、機能やサービスの在り方などについて専門家や県民の意見も伺いながら、新しい県立図書館の実現に向けてしっかりと取り組んでいく。



# 1 県立図書館の現状

- 熊谷・久喜の2館体制でサービスを提供
- 資料収集分野を分担するなど役割分担をしながら運営

	県立熊谷図書館	県立久喜図書館
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 熊谷市箱田5-6-1 (熊谷駅から徒歩20分)</li> <li>■ 構造：鉄筋コンクリート(地上3階)</li> <li>■ 敷地面積：4,163㎡</li> <li>■ 延床面積：3,580㎡</li> <li>■ 収蔵能力：約45万冊</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 久喜市下早見85-5 (久喜駅から徒歩20分)</li> <li>■ 構造：鉄筋コンクリート(地上3階)</li> <li>■ 敷地面積：5,977㎡</li> <li>■ 延床面積：4,059㎡</li> <li>■ 収蔵能力：約51万冊</li> </ul> 
開館年月	■ 昭和45(1970)年4月	■ 昭和55(1980)年6月
図書蔵書数	■ 978,657冊(令和4年3月31日現在) ※うち、約55万冊は外部書庫	■ 599,254冊(令和4年3月31日現在)
資料分担分野	総記、哲学・宗教、歴史・地理、社会科学、産業、地域・行政資料、海外資料	自然科学、技術、芸術、言語、文学、児童サービス用資料、障害者サービス用資料
特徴的なサービス	ビジネス支援サービス、海外資料サービス、地域・行政資料サービス、視聴覚資料サービス	健康・医療情報サービス、児童サービス、子ども読書支援センター、障害者サービス
オンラインデータベース	2館計 19種類	
	うち16種類	うち13種類
利用状況 (令和2・3年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 入館者数：[R2] 73,909人 [R3] 113,493人</li> <li>■ 貸出数：[R2] 91,229点 [R3] 126,343点</li> <li>■ レファレンス件数(事項調査)：[R2] 1,437件 [R3] 1,872件</li> </ul> <small>※各実績は、浦和分室を含む</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 入館者数：[R2] 84,170人 [R3] 117,161人</li> <li>■ 貸出数：[R2] 84,392点 [R3] 116,242点</li> <li>■ レファレンス件数(事項調査)：[R2] 3,450件 [R3] 3,621件</li> </ul>
市町村立図書館等支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 市町村立図書館等への図書等貸出点数：[R2] 31,334点 [R3] 37,463点</li> <li>■ 図書館間資料搬送：[R2] 725,880点 [R3] 844,754点</li> </ul>	

## 目指すべき方向性

将来を見据え、県立図書館の役割を果たしていくため、新しい県立図書館についての検討を進めていく



## 2 令和3年度の取組

### ■ 新しいタイプの図書館検討有識者会議の開催 専門的見地からの県立図書館の新たな機能について意見聴取

- 令和3年5月31日から令和4年3月7日まで、計5回にわたり、委員のプレゼンテーションや先進的な取組事例の報告を交えながら議論を進めた。
- 埼玉県立図書館の目指すべき方向性や機能、サービスを具体的に示すことを目的として報告書を取りまとめた。

氏名	役職等
◎池内 淳	筑波大学図書館情報メディア系 准教授
小澤 弘太	国立国会図書館総務部企画課 課長補佐 参事
佐藤 翔	同志社大学 免許資格課程センター 准教授
平賀 研也	元県立長野図書館長 日本大学芸術学部非常勤講師
水田 千恵	ヤフー株式会社CTO室 Developer Relations アドボケイト

◎座長 (五十音順、敬称略)



#### 目次

はじめに	2
01. 図書館を取り巻く社会の動向	3
02. 県立図書館の現状と課題	7
03. 新しいタイプの県立図書館の基本的な考え方	14
04. 新たな機能と具体的なサービス	19
05. 新たなサービスの実現に必要な人材や施設	27
おわりに	30
新しいタイプの図書館検討有識者会議 委員名簿等	31
参考資料【別冊】	



## 2 令和3年度の取組

# 新しいタイプの図書館検討有識者会議 「議論のまとめ」

### 01. 図書館を取り巻く社会の動向

#### ✓ 社会のデジタル化の進展

デジタルそのものが便利なツールから生活基盤になってきている。

#### ✓ “情報”や“行動”の変化

リテラシーの向上や適切な情報を抽出するマッチングやキュレーション（インターネット上の情報を収集しまとめること）サービスが求められている。

#### ✓ 少子高齢化・人生100年時代の到来

社会で活躍する期間が長期化  
生涯にわたって学べる環境づくりが求められている。

#### ✓ 価値創造型社会の進展

society5.0 = デジタル革新と多様な人々の想像力・創造力の融合によって社会の課題を解決し、価値創造する社会

### 02. 県立図書館の現状と課題

#### <現行のサービス>

#### ✓ 専門性の高い図書・資料の収集・提供

- ◆ 調査研究用図書・学術書や埼玉県の地域・行政資料
- ◆ 外国語資料等、多様性に対応した資料

#### ✓ 専門図書館的な機能による課題解決支援

- ◆ ビジネス支援、健康・医療情報サービス、障害者サービス、海外資料サービス、子ども読書支援センター

#### ✓ 専門的な資料を駆使したレファレンス（調査・相談）

- ◆ 市町村で解決できないレファレンスを後方支援

#### ✓ 市町村立図書館等への支援～県内図書館ネットワークの中核～

- ◆ 相互貸借ネットワークの要として資料を搬送
- ◆ 県内の司書の人材育成・運営相談

#### <課題>

#### 1 来館型サービスが中心

- ✓ オンラインで利用できる図書・資料は少なく館内利用に限られている。
- ✓ 市町村立図書館等に取り寄せるには時間がかかる。

#### 2 紙の資料をベースとしたサービスが中心

- ✓ 所蔵図書約160万冊のうち、デジタル化済の図書・資料は1332点
- ✓ 電子書籍・オーディオブックサービスは未導入

#### 3 一方通行のサービスが中心

- ✓ 県民は図書館が提供したサービスを受益するのみ



## 2 令和3年度の取組

### 03. 新しいタイプの県立図書館の基本的な考え方

新しいタイプの図書館検討有識者会議 議論のまとめ

#### ■ これからの時代の県立図書館のミッションとして「**県民とともに社会をつくる**」を提唱

##### ① デジタルで豊かな社会をつくる

- ✓ 県民一人一人の必要とする知識や情報をデジタル技術を徹底活用して提供する。
- ✓ 県立図書館が中核となった地域デジタル情報ネットワークを形成する。
- ✓ 県民の情報リテラシーの醸成を支援する。

##### ② 新たな価値を生み出す社会をつくる

- ✓ 蓄積された知識の中から必要な情報を適切に提供することにより県民の生涯学習を推進する。
- ✓ 県民同士の対話と協働を促進し、新たな価値を創造する知的活動を支援する。

##### ③ 誰一人取り残さない社会をつくる

- ✓ 場所、時間、年齢、心身の状況、国籍などにかかわらず、全ての県民に対して知識・情報を提供する。
- ✓ 先進的モデルとなるサービスを率先して実施し、市町村立図書館の活動の充実を促進する。
- ✓ これまで蓄積してきた知識・情報を適切な形態で保存し、引き継ぐ。

### 04. 新たな機能と具体的なサービス

#### 1 様々な情報資源へのアクセスの拠点

- ✓ 全ての県民が様々な情報資源にワンストップでアクセスできるよう、県立図書館がデジタルネットワークの拠点としての役割を担う。

→図書館以外の機関が保有するデジタルコンテンツにアクセスできるプラットフォームを整備、電子書籍等へのアクセス機会の提供 など

#### 2 新たな価値を生み出すインタラクティブ(双方向)な機会の提供

- ✓ 県民一人一人が多様な人々との対話や協働を通して、新たな価値を創造する活動にチャレンジできるよう、県立図書館がインタラクティブ(双方向)な場や機会を提供し、県民の力を引き出す役割を担う。

→異分野の交流、県民が創造(編集した)情報を蓄積し二次利用できる環境を整備 など





# 3 今年度の取組

## ■ 新埼玉県立図書館基本構想の策定

### 今後の方向性

有識者や県民の意見を踏まえ、新しい県立図書館についての検討を進めていく

#### ◆ 専門家からの意見聴取

- 有識者会議を開催し、専門的見地からの意見を聴取する。

#### ◆ 県民の意見の反映

- ワークショップや県民アンケートなどを通じて、県民の意見を反映する。

### 基本構想（イメージ）

#### ○ 埼玉県立図書館の沿革と現状

- ・沿革、これまでの検討の経緯
- ・現状と課題

#### ○ これからの県立図書館

- ・基本コンセプト、図書館像、基本方針
- ・基本方針に基づく主なサービス（機能）

など